

<公共施設カルテの見方について>

● 基本データ

施設の建物の基本情報を記載しています。

有効度とは、躯体健全性と躯体以外の劣化状況から評価を数値化したものです。

（有効度の数値が低い⇒建物状態良好、有効度の数値が高い⇒建物状態不良）

※見方例：Ⅰ－A－1 の場合、（躯体健全性Ⅰ－ 躯体以外の劣化状況 A－ 有効度 1）

- ①躯体健全性（Ⅰ～Ⅳ）：施設の残存耐用年数を示す。
- ②躯体以外の劣化状況（A～D）：屋根、外壁、設備等の劣化状況を示す。

		修繕・部分改修 改修費用 小				大規模改修 改修費用 大			
		劣化状況調査							
長寿命化 ↑	躯体健全度	A (70点以上)				B (60点以上70点未満)			
		C (50点以上60点未満)				D (50点未満)			
	Ⅰ (残存40年以上)	有効度 1				有効度 2			
		有効度 3				有効度 4			
	Ⅱ (残存20年以上～40年未満)	有効度 2				有効度 3			
↓ 建替・解体		有効度 4				有効度 5			
	Ⅲ (残存20年未満)	有効度 3				有効度 4			
		有効度 5				有効度 6			
	Ⅳ (耐震なし、未診断)	有効度 4				有効度 5			
		有効度 6				有効度 7			

● 管理運営データ

利用者数：主に公共用施設の利用者数

主に公用施設は「対象外」、集計をとっていないものは「－」と記載

稼働率：貸館をしている施設のみ対象

貸館等をしていない施設は「対象外」、集計をとっていないものは「－」と記載

● ランニングコスト

平均値（令和 5 年度）について

支出・収入：34,605,790 円

年間コスト：1,177 円

● 一次評価結果（評価基準と評価点）

<建物評価>	評価基準		評価点
耐震性	耐震性あり		10
	耐震性なし・未診断		0
有効度	1～2		10
	3～4		6
	5～6		4
	7		0
コスト（対象施設中順位） ・維持：修繕費、工事費、 土地借上料他 ・運営：人件費、光熱水費、 委託料他	コスト低い ↑ ↓ コスト高い	0～25%	10
		25～50%	6
		50～75%	3
		75～100%	0
		休館・閉鎖施設	

<利用状況評価>	評価基準		評価点
利用者増加率 （前年実績－5年前実績） ／5年前実績	30%以上		10
	10～30%未満		8
	0～10%未満 築5年未満の施設		5
	-20～0%未満 利用者情報無		3
	-20%未満 利用者情報不明		0
稼働率 利用枠数 ／（開館日数×利用可能枠数）	50%以上		10
	30～50%未満		6
	15～30%未満		4
	15%未満 休館・閉鎖施設		0
	稼働率算出対象外 稼働率不明		5
年間コスト（対象施設中順位） 支出合計／人口	コスト低い ↑ ↓ コスト高い	0～25%	10
		25～50%	6
		50～75%	3
		75～100%	0
		休館・閉鎖施設	

● 一次評価結果からの方向性

評価結果			方向性
I	建物評価、利用状況評価ともに高い	→	現状維持。施設の保守・点検等を引き続き実施
II	建物評価は高いが、利用状況評価は低い	→	施設の集約化・複合化の検討、民間提案による運営の見直し等が必要
III	建物評価は低いが、利用状況評価は高い	→	建物更新の検討（民間提案等）、新設・移転の検討
IV	建物評価、利用状況評価ともに低い	→	廃止（譲渡・売却等）の検討、集約化・複合化の検討、解体